

## 米国出張の話

三多摩支会 国際部

田村 茂

かれこれ 20 年前になりますが、当時毎年 2 回ほど本社への出張がありました。当時、外資系の生命保険会社で情報システム部に属し、日米共同のシステム開発の日本側のプロジェクトリーダーを任命されており、日米交互にプロジェクト進捗会議が行われていたためです。仕事の内容はともかく、本社出張にまつわる話を紹介します。

私が勤めていた会社の本社は米国のジョージア州コロンバスで、州都のアトランタから空路で約 30 分、ハイウェイで約 2～3 時間の、アラバマ州に近い位置にあります。アラバマ州との州境にチャタフチ川という川が流れており、名前がユニークなので今でも覚えています。チャタフチ・リバー・ウォークは景観のよいところです。当時のコロンバスはローカルな町で、17 階建の本社ビルが一番高い建物で、次が 5 階建てのホテルだったと思います。あとは平屋か 2 階建ての建物ばかりで、山もなく、絨毯を一気に広げたような町でした。また、コロンバスのヒストリカルエリアには、コカコーラの創始者の生家があります。

出張はいつも、JAL か Delta を利用していました。そして、ありがたいことにビジネスクラスを利用することができたので、成田で出発までラウンジを使うことができました。そこでよせばいいのに、フリーのビールを飲みすぎて、まさに離陸する頃にもよおし、ベルトサインが消えるのを待つことができず、当時のスチュワーデスに「急に体調をくずされたお客様をトイレにお連

れします」と機長に連絡されたことがありました。当時は若かったせいもあり、新陳代謝が盛んで、アルコールを飲むとすぐにトイレに行くことが多く、本社のスタッフから” Small tank Tamura!” とからかわれていました。彼らと夕食を供にした後、レストランからホテルまで車で送ってもらう時でも、途中で最寄りのファストフードのお店に寄ってもらったこともありました。

コロンバスを訪れると必ず連れて行かれたのが、「なまず」” Catfish” を料理しているレストランです。食品工場のような広いお店で、私はなまずのフライしか食べませんでした。なかなかおいしい魚でした。そこには「かき」” Oyster” も名物でなまず同様人気のメニューでした。大きな生牡蠣が大きなプレートに乗せられて運ばれてきました。昨年日本にも進出して話題になった” Footers” が、その当時すでにローカルなコロンバスにも出店しており、本社スタッフと度々昼食を食べにいきました。”Footers” については、いろいろ紹介したいのですが、ここでは割愛させていただきます。

さて、コロンバスから少し離れたところに風光明媚なキャラウェイガーデンがあります。コロンバスを訪れたら、一度行っても損はしないと思います。自然がとてもきれいなところです。一度、そこでゴルフをしましたが、コースにはリスや鳥が戯れ、私のようなへぼなゴルフプレーヤーにはもったいないコースでした。

12月にコロンバスを訪れたとき、ちょうどクリスマスシーズンで、場所は覚えていませんが、夕食後、まるで絵はがきにでてくるような、家の周り一面にクリスマスイルミネーション（実際は”Christmas Lights”と言っていました）をした家を観に行ったことがあります。日本でも見かけますが、とにかく見物人が大勢集まるほどのすごさでした。

そして、ウソのような本当の話。当時、システム開発をしていた協力会社の役員が本社に行くことになり、独自で航空チケットを購入し、本社に向け出発しました。ところが、彼が飛行機から降り立ったところは、オハイオ州のコロンバスでした。そこで初めて目的地ではないとわかったそうです。まさかなんて話はあるものです。

最後に、ラッキーな思い出をひとつ。ある時、成田のDelta航空のラウンジで出発を待っていると、呼び出しがあり、何かと思っただけで行ってみると、ビジネスクラスがオーバーブッキングで、もしよければファーストクラスにお席がありますが、とのこと。よろしいとか、よろしくないということではなく、当然OK。泣いても笑っても、ファーストクラスに乗ったのはこのときのみ。食事は本物の陶器の皿でもてなされるわ、至れり尽くせりの十数時間を過ごさせていただきました。

すでにその会社を退職し、直接関係はなくなりましたが、機会があればコロンバスを訪れてみたいと思います。エコノミークラスで。

以上